外注化阻止ニュース 第１８６号

〔発行日〕２０１５年５月７日
〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://www.geocities.jp/kanemasa1616/

ＪＲの業務外注化と非正規雇用化に反対するニュースです。感想や意見、現場の情報をお寄せ下さい。dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

山手線支柱倒壊　外注化が情報伝達を破壊

指摘しても取り合わないのは誰なのか!?

山手線支柱倒壊についてＪＲ東日本の冨田社長の名前で出された「グループ会社の皆さんへ」と題する文書は「お客様の死傷がなかったことは、安全の神様が見ていてくださっているのかも」という前代未聞の無責任な内容です。

ところで、冨田社長は倒壊の原因について「現在調査中ですが、安全にかかわるリスクのとらえ方とそれに基づく状況判断、関係者間での情報伝達などの仕事のしくみ、緊急時に危険を回避する具体的行動といった点において、あらためて見直す必要がある」と言っています。

倒壊を防ぐ機会は何度もあった

報道にもあるように倒壊を未然に防ぐ機会は何度もありました。

倒壊２日前、現場付近を歩いていた工事担当者が気付きました。上司に報告しましたが「３日後の月曜日に対策をとればよい」と判断され、情報はそれ以上伝わりませんでした。

前日夜も山手線の運転士が報告しました。この時は総合指令室まで報告が行きましたが始発前に点検は行われませんでした。倒壊当日、担当者が始発電車に乗り込み「傾きが大きい」と感じながら現場を離れ、直後に倒壊しました。

なぜ情報伝達が破壊されたのか？

冨田社長の指摘の通り情報伝達や状況判断に問題がありました。しかし問題は、何がこうした状況を生み出したのかです。人件費削減で黒字が１千億円も増えるほどの重層的な外注化によって情報伝達や状況判断が破壊されたのではないのか。

冨田社長は、利益優先・安全無視の経営姿勢と外注化を棚に上げ、グループ企業に対して「基本動作を丁寧かつ誠実に実施」「与えられた職責を果たせ」などと説教するのは本末転倒です。

「危険や問題点を指摘しても取り合わないのはどっちなの？」――こうした現場の意見に真摯に耳を傾け、直ちに外注化を中止すべきです。

グループ会社の皆さんへ

４月 12 日（日）６時 10 分頃、山手線神田・秋葉原駅間において、撤去を予定していた電化柱が倒れ、山手線の線路を支障するという事象が発生しました。電化柱が倒れるところを京浜東北線の北行列車の運転士が発見し、緊急停止して防護無線を発報したため、山手線の列車と電化柱が衝突するという最悪の事態は避けられましたが、倒れる直前には先行列車が現地を通過しており、場合によっては、列車脱線事故になっていた可能性もありました。

原因は現在調査中ですが、安全にかかわるリスクのとらえ方とそれに基づく状況判断、関係者間での情報伝達などの仕事のしくみ、緊急時に危険を回避する具体的行動といった点について、あらためて見直す必要があるのではないかと考えています。

一人ひとりの業務がお客さまの命に係わるという使命の重みを、いま一度全員で肝に銘じましょう。「危ないと思ったら列車を止める」、「確認会話」や「指差喚呼」などの基本動作を丁寧かつ誠実に実施する、企画部門がリスク感覚を研ぎ澄まし現場第一線を支援する、全員が与えられた職責を果たすといった安全の基本、安全の原点に立ち返り、着実に行動していきましょう。

昨年 2 月に発生した京浜東北線川崎駅構内での回送列車の脱線事故、そして今回の事象でもお客さまの死傷がなかったことは、安全の神様が見ていてくださっているのかも知れません。しかし、いずれもギリギリのところで大惨事をまぬがれたのだという重たい事実を真摯に受け止める必要があります。

皆さん、間もなくゴールデンウィーク輸送を迎えます。お客さまに安心してご利用いただけるよう、もう一度安全の原点を踏まえ、たゆまぬ努力と挑戦を重ねていきましょう。そして、グループ全社員が一体となって、「究極の安全」の実現をめざし「限りなき前進」を続けましょう。

平成 27 年４月 14 日

東日本旅客鉄道㈱
代表取締役社長
冨田　哲郎